

自然環境の復元・創造に関わるフィールドから政策まで一貫した研究を行っています。

都市緑化

単に緑を増やすだけでなく、生物多様性に配慮し、その土地に昔からある植物(在来種)などを用いた緑化手法を研究しています。また、アロマスケープ(香り)やサウンドスケープ(音)の概念を取り入れた緑化手法の研究も行っています。

＜主な研究のキーワード＞

- 湿地ピオトープ・パッケージによる屋上緑化
- 香りを感じるハーブ類を用いた「香りの芝生」
- 香りと花で楽しむバラ属を用いたフェンス緑化



中庭に設置した湿地ピオトープ

政策

経済活動と自然環境保全のバランスを図るための仕組みについて、米国を始めとした諸外国の制度に着目し、日本への導入に向けて研究しています。その中で、市民や企業、行政との連携による経済活動と保全の両立を目指した活動を行っています。

＜主な研究のキーワード＞

- 生態系保全のための生物多様性オフセット
- 里山の問題の解決策“SATOYAMAバンキング”
- 生物多様性保全のためのミティゲーション順位



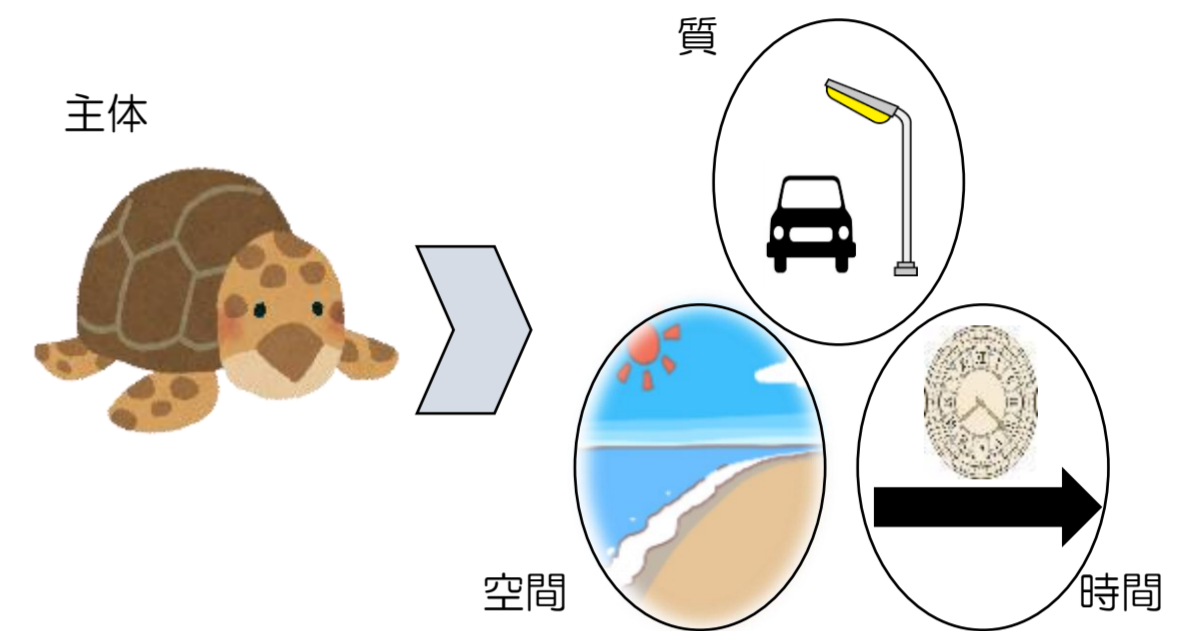
代償ミティゲーションの模式図

評価手法

誰もが分かるように生態系の価値を計る仕組みを研究しています。当研究室では主にHEP(生息地評価手続き)について研究しています。HEPを活用し、開発の影響評価や保全の現状評価、ランドスケープデザイン計画等を研究を行っています。

＜主な研究のキーワード＞

- HEPによる上郷開発事業におけるハビタット保全
- ダム撤去におけるHEPを用いた評価手法
- 簡易HEPを用いた鉄道林の生物多様性評価



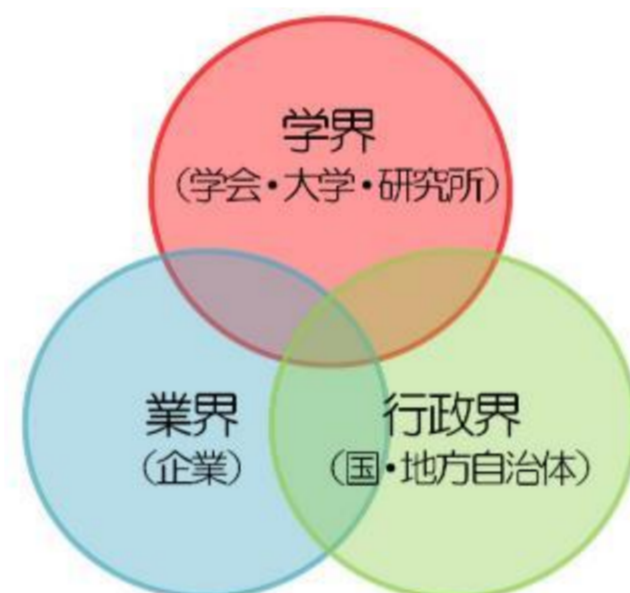
HEPの概念(質・空間・時間)

▶▶ 持続可能な開発に向けた“生物多様性保全と経済活動の両立”

実社会(3G)との連携

研究室では生態系保全のため、学界・行政界・業界という3つのGとの連携を重視しています。「研究のための研究」ではなく、「実社会で使える研究」を目指しています。

- ◆学界：環境アセスメント学会、造園学会などにおいて、研究発表を行い、他大学とも共同研究を行っています。
- ◆業界：企業と共同で研究を行い、双方の利益となる研究を行っています。
- ◆行政界：国や地方自治体との勉強会を通して、地域の生物多様性を保全するための政策を考えます。



主な受賞歴

- ◆第9回東急グループ環境賞 努力賞(2017)
「下田市でのアカウミガメ産卵地保全と利用に関する取り組み」
- ◆第12回神奈川県産学チャレンジプログラム 最優秀賞(2015)
「中小建設業が取り組めるビルリニューアル事業の展開案」
- ◆公共社団法人日本不動産学会 論説賞(2015)
「米国宅地開発の環境アセスメントにおける生物多様性保全 -ミティゲーション・シークエンスと代償ミティゲーション-」
- ◆第10回神奈川産学チャレンジプログラム 優秀賞(2012)
「ハーブを用いた室内緑化の提案」



葉山町海岸での磯観察会の様子



葉山町の中学校の体験学習の様子



下田高校生徒との海浜環境調査の集合写真



環境アセスメント学会の口頭発表の様子



研究室卒業生の集合写真

伊豆半島におけるアカウミガメの産卵地保全の活動

田中章研究室では、現在静岡県レッドリストによって「絶滅危惧IA類(CR)」に指定されているアカウミガメ(Caretta caretta)の産卵地を保全するための研究活動を続けています。きっかけは2010年の夏の夜、静岡県下田市の入田浜にて、アカウミガメの稚ガメが自動販売機の光を海面に映った月や星の光と勘違いして集まり、海に向かうことができずに干からび死んでいた事でした。聞き込み調査により、アカウミガメの産卵地保全の体制やネットワークが十分に整っていない可能性が浮かび上がってきました。

当研究室は地元高校生と共同で海浜環境調査を実施し、野生生物のハビタット(生息地)としての適性度評価手法に関する研究を進めました。その上で、伊豆半島の海がアカウミガメにとっての故郷であることを、市民をはじめ多くの方々に知ってもらい、産卵地保全の意識を高めようと、周知ポスターや看板などを設置しています。今後も、アカウミガメ産卵地保全の活動を通して伊豆半島の自然環境保全と地域経済活性化の促進につながるよう精進していきます。

アカウミガメ周知ステッカーの配布



- 実施：東京都市大学環境学部
- 後援：静岡県/伊豆半島ジオパーク推進協議会
- 協力：伊豆急行株式会社/下田海中水族館/伊豆海洋自然塾
- 支援：国立研究開発法人科学技術振興機構

▶▶ “地域経済活性化と自然環境保全のバランス”

を模索するため、市民らを招き勉強会を2011年より7回開催

◆共同海浜環境調査

将来里海の管理従事者となりうる地元高校生と連携し、アカウミガメ産卵地としての適否という観点から、伊豆半島の海浜環境について考えました。下田市の入田浜において、人工物の有無、植生の場所、自動販売機の照度、砂中深度の調査を行いました。



■HEPの仕組みを説明している様子



■調査の様子



■集合写真



- 設置：南伊豆町教育委員会
- 寄贈：河津建設株式会社
- 企画：東京都市大学 田中章研究室



■光に誘われ海に向かえなくなっている稚ガメ